

川崎市議会議員(麻生区選出、無所属) <http://www.tsukimoto.info>

月本たくや

レポート【第21号】



月本たくやレポート編集部

〒215-0031 川崎市麻生区栗平 1-5-32 ペアーズハイム 101
TEL : 044-986-6010 FAX : 044-986-6011 Email : mail@tsukimoto.info

戦略的国際交流・都市間交流

川崎市の姉妹都市・友好都市・友好港は？

川崎市には姉妹都市、友好都市、友好港があります。「全部覚えていますか？」と聞かれても、私も自信がありません。

逆に、「一つでも知っていますか？」と聞かれて、一つでも答えられる人はどれぐらいいるのでしょうか？

他方、相手都市の市民に同じ質問をして、いかがでしょうか？

姉妹・友好都市「締結何周年」という機会を除き、ほとんどそのつながりが実感できないわけですが、この事業に大なり小なりの税金が投入されているわけで、その情報をより多くの市民が知ることと、より戦略的・効果的な運用が求められます。

姉妹・友好都市で市民にもっとも知られているのは、おそらく「音楽のまち」で友好関係の強いオーストリアのザルツブルク市でしょう。

楽器の修理が縁だったことから始まった関係で、姉妹都市締結22年。

平成23年3月11日の東日本大震災でミュージアム川崎シンフォニーホール天井落下事故の際には、ザルツブルク市民がこのホール再建のために募金してくれました。

また、ザルツブルク鉄道模型クラブと麻生区に事務局のあるモデルアイゼンクラブは、ヨーロッパ型ジオラマ鉄道模型で民間レベルでの交流がこれまでも行われて来た経緯もあります。

この関係を、より多くの市民が実感し、メリットが出るような戦略的な交流を進めていくことが大切であるという観点で、6月の議会で質問しました。

交流事業の検証

姉妹都市・友好都市は様々なきっかけで締結され、その後の関係性はどうなっているのかが見えにくい状況にあります。



特に、締結時の関係は文化の要素が強く、その後、他の分野にどのように派生しているのかについて、議会質問を行いました。

まず、中国の瀋陽市は、重工業での関係性から派生し、環境分野での交流に発展しているのが近年の特徴です。

また、韓国の富川市は、多文化共生を進めてきた商店街どうしの交流から友好都市締結へ。そこから派生し、現在、漫画のまちとしての交流を始め、川崎市はほぼ毎年職員の人事交流を行っています。

姉妹・友好都市を戦略的な交流に発展させるためには、川崎市と相手都市との二都市間の交流だけでなく、三都市連携などの他都市と戦略的な連携施策を進めるべきです。代表例としては、環境分野においては、川崎国際環境技術展に参加する都市が多く、環境という一つの大きなポイントに世界から集い、技術を中心とした経済交流が活性化されています。

他方、オーストラリアクイーンズランド州は姉妹友好都市ではありませんが、上下水道局が水道事業で連携を進めていて、川崎市との関係性が深まっています。

交流の深さは、姉妹・友好都市であるかどうかではなく、民間レベルでどれだけ交流が進められているかが大切で、経済協力は関係を深めやすい交流で

しかし、このような国際交流事業を総括し、効果検証が行われず、都市間交流のメリットが見えにくいため、今回の議会質問で総括を求めました。

総務局長より「今後、川崎市としても検証していく」との答弁があり、総括をした上で、次の戦略へ進めるという方向付けができました。

今回の質問の成果の一つとして、姉妹友好都市や関係の深い都市に、これから戦略的な交流を進めていくきっかけを作りました。

国際感覚を持った人材育成に向けて

川崎市は世界を代表する都市に成長しつつあります。

当然、国際感覚を兼ね備えた人材の育成が必要になります。

そこで、今回は、現在進められている韓国富川市との職員の人事交流の効果について質疑をしました。答弁では、川崎市から派遣された職員は、帰国後、国際交流の最前線でその経験を活かしているとのことでした。他方、富川市は川崎市でのまちづくりについて政策的なノウハウを帰国後に活かしたとすることで、私の意見としてはもう少し川崎市側も戦略的な活用を進めるべきと考えます。

国際感覚を養うには、現在行われている中途採用での人材登用も一つですが、民間企業との人事交流や職員が姉妹・友好都市を中心に人事交流を進めたり、大学院等へ官費留学したりという手法があります。

また、オーストラリアのウーロンゴン市とは、川崎信用金庫がバックアップした交換留学制度があり、市民の国際人材の育成について、民間企業がこのような支援を行い、川崎市に貢献しています。

現在、川崎市では、京浜臨海部の国家戦略特区を始めとしたライフイノベーション、環境産業を考えたグリーンイノベーション、福祉産業を考えたウェルフェアイノベーションの三本の矢が経済・産業の発展の要とされていますが、知的財産を始め、成長

戦略分野の政策目標実現に向けた、国際人材育成が急務であり、対応を進めるよう、求めています。



市民がメリットを感じる交流

都市間交流は、直接的に交流している分野に関わる人だけでなく、お互いの市民であるがゆえのメリットを活用し、より川崎市を訪問してもらえるような取り組みが必要です。

例えば、東京都の台東区では、姉妹都市の市民が公共施設を利用する際に、区民価格で利用できるというメリットを持って集客戦略を進めています。

川崎市は海外の旅行博で配布したパンフレットを持参してもらおうと、日本民家園を利用する際にメリットがあるような施策を今年度から進めています。海外だけでなく、国内の都市への取り組みも重要です。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、国内外から東京周辺を訪れる人がいます。そこで川崎市に訪問してもらえるような、取り組みの一つとして姉妹・友好都市の市民へのメリットの享受が一つのきっかけになるため、今後の積極的なPR活動を求めています。

おわりに

国際交流・都市間交流は、文化から始まることが多いわけですが、市民レベルへの波及を考える。

その関係を活かし、人材育成への活用。

そして、姉妹・友好都市の市民であることのインセンティブにより、さらに交流を深める。

国際交流・都市間交流における目標を掲げ、戦略的に施策を進めていくことが、今の川崎市には必要です。

月本たくやプロフィール

昭和 53 年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市長 阿部孝夫 政務秘書、衆議院議員 山内康一 公設第二秘書（麻生区・国会担当）等を経て、平成 23 年より川崎市議会議員。交渉会派団長（最年少）、議会運営委員会委員、川崎市農業委員（議会推薦）等を経て、平成 25 年より無所属。

現在 川崎市議会議員（麻生区選出） 市民委員会委員 NPO 法人防犯ネットワーク理事・麻生区支部長

川崎市麻生区男子ソフトボール連盟副会長 麻生区白鳥在住 家族：妻と共働き世帯 血液型：A 型

月本たくや事務所

麻生区栗平 1-5-32 ベアーズハイム 101 号

TEL 044(986)6010 FAX 044(986)6011

